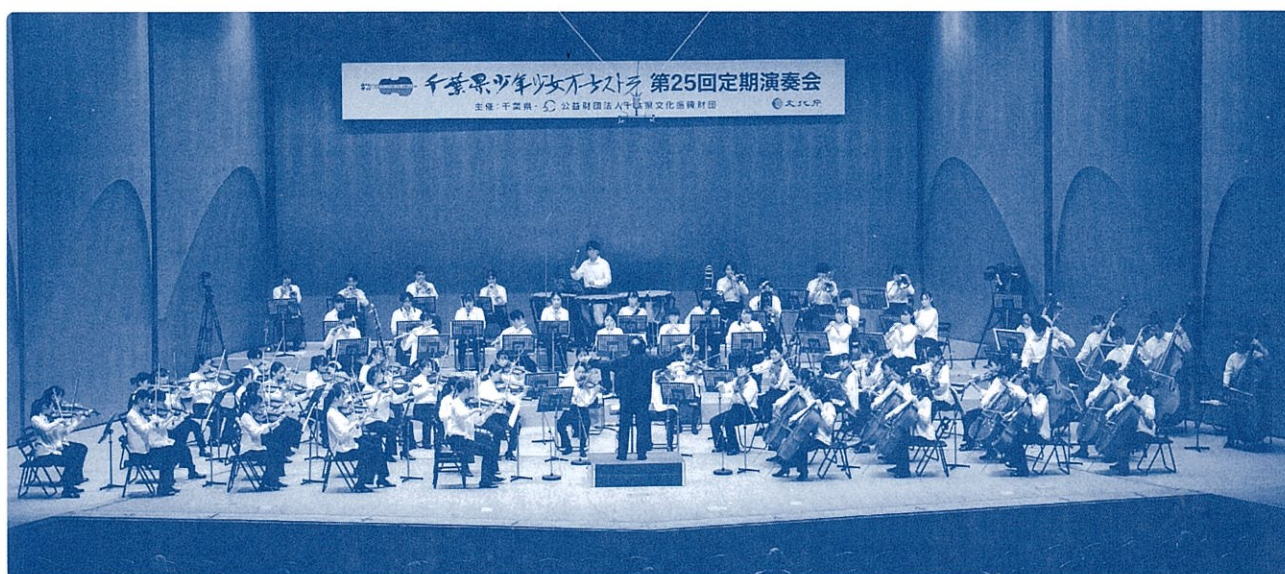


千葉県少年少女オーケストラ



第29回定期演奏会



第25回定期演奏会より 指揮：下野竜也

2025年3月30日（日）

午後2時 開演

千葉市民会館 大ホール

主催：千葉県・ 公益財団法人 千葉県文化振興財団・ 日本音楽財団

助成：公益財団法人日本財団
文化庁文化芸術振興費補助金
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会



Greetings

ごあいさつ



千葉県少年少女オーケストラ 代表
千葉県知事 熊谷 俊 人

本日は「千葉県少年少女オーケストラ第29回定期演奏会」に、ようこそお越しくださいました。

当オーケストラは、平成8年の結成以来、佐治薫子音楽監督の熱心な指導のもと、「よい音で、よい演奏を」をモットーに日々の練習に励み、皆様の御支援に支えられ、今年で29年目を迎えました。県内はもとより、国内外で演奏活動を行い、多くのお客様から高い評価をいただいております、本県が世界に誇るオーケストラとして成長を続けています。

本日の指揮者である下野竜也氏は国内外で活躍され、現在はNHK交響楽団正指揮者を務めるほか、これまでも国内トップクラスのオーケストラで指揮者を歴任されるなど、今最も高い評価を得ている指揮者の一人です。

また、バイオリン奏者のレイ・チェン氏は数々の著名な国際コンクールでの優勝など輝かしい経歴をお持ちで、世界の名門オーケストラとの共演や、SNSでの積極的な情報発信により、世代を問わず多くの注目を集めています。

当オーケストラの拠点である千葉県文化会館は令和5年4月から大規模改修工事を実施しています。昨年の定期演奏会は東京都内で実施したため、今回は2年ぶりの千葉県内での開催となります。団員たちは、本日の公演に向けて、精一杯練習を積み重ねてまいりました。1年間の活動の集大成となる演奏を心ゆくまでお楽しみください。

結びに、本演奏会の開催に当たりまして、皆様から寄せられた多大なる御支援、御声援に對し、心から感謝申し上げますとともに、これからも千葉県少年少女オーケストラの活動を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。



千葉県少年少女オーケストラ 団長
公益財団法人千葉県文化振興財団理事長 清水 生也

本日は「千葉県少年少女オーケストラ第29回定期演奏会」に御来場いただきまして、誠にありがとうございます。

当オーケストラは、平成8年に佐治薫子氏を音楽監督に迎え、都道府県としては全国初の少年少女オーケストラとして結成されました。10歳から20歳までの団員が県内各地から集まり、練習に励んでいます。

当オーケストラの活動拠点である千葉県文化会館は令和5年4月から大規模改修工事を実施しており、団員たちは県内各地の会場をお借りして日々の練習を行ってきました。練習会場については公立文化施設を使用したほか、県内の企業から会場をご提供いただき本日の演奏会を迎えることができました。

本日の指揮者である下野竜也氏には、平成24年の第16回定期演奏会から複数回に渡る共演を通じて、当オーケストラの育成にご協力いただいております。また、バイオリン奏者のレイ・チェン氏は世界で注目を浴びる演奏家で、今後ますますの活躍が期待されています。今回の共演は団員たちにとって大きな刺激となることでしょう。

本公演は、事業連携に関する協定を締結している公益財団法人日本音楽財団との協働により実施されています。このような素晴らしい環境で演奏会を開催できますことを大変喜ばしく感じています。

結びに、千葉県少年少女オーケストラを支える会の皆様、本日の演奏会に足を運んでいただいた皆様に深く御礼申し上げます。今後も「よい音で、よい演奏を」をモットーに活動을続けてまいりますので変わらぬ御支援、御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

Program

プログラム

指揮：下野 竜也

ニコライ／歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲

Otto Nicolai/ "Die lustigen Weiber von Windsor" Ouvertüre

メンデルスゾーン／バイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64, MWV O 14

Felix Mendelssohn Bartholdy/ Violinkonzert e-moll Op.64

バイオリン独奏：レイ・チェン

第1楽章 Allegro molto appassionato

第2楽章 Andante

第3楽章 Allegretto non troppo - Allegro molto vivace

⬡ ⬡ ⬡ ⬡ ⬡ ⬡ ⬡ 休 憩 (20分) ⬡ ⬡ ⬡ ⬡ ⬡ ⬡

ベートーベン／交響曲第3番 変ホ長調 Op.55 「英雄」

Ludwig van Beethoven/ Symphonie Nr.3 Es-dur op.55

第1楽章 Allegro con brio

第2楽章 Adagio assai

第3楽章 Allegro vivace

第4楽章 Allegro molto

Profile

プロフィール



©Shin Yamagishi

指揮 下野 竜也



(English)

NHK交響楽団正指揮者、札幌交響楽団首席客演指揮者、広島ウインドオーケストラ音楽監督、広島交響楽団桂冠指揮者。

鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室で学ぶ。1996年キジアーナ音楽院で指揮のディプロマを取得。1997年大阪フィル初代指揮研究員を経て1999年文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーン国立演劇音楽大学に留学。

2000年東京国際音楽コンクール＜指揮＞優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年ブザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴びる。

NHK交響楽団をはじめ国内の主要オーケストラの定期演奏会に毎年のように招かれる一方、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チェコフィルハーモニー管、シュツットガルト放送響、ロワール管、シンフォニア・ヴァルソヴィア、サンノゼ響、バルセロナ響などに客演。オペラにおいても新国立劇場、二期会、日生劇場をはじめ注目の公演で指揮を務めている。

読売日本交響楽団初代正指揮者、同首席客演指揮者、京都市交響楽団常任客演指揮者、同常任首席客演指揮者を歴任。

出光音楽賞、新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞、MBC賞、東燃ゼネラル音楽賞奨励賞、南日本文化賞特別賞、有馬賞、広島市民賞、中国文化賞などを受賞。

東京藝術大学音楽学部指揮科客員教授、東京音楽大学吹奏楽アカデミー特任教授として後進の指導にもあたる。

鹿児島市ふるさと大使。おじゃんせ霧島大使。

NHK大河ドラマテーマ曲収録（25年放送開始の最新作「べらぼう」を含む7作品）、NHKFM「吹奏楽のひびき」パーソナリティを務めるなど、放送においても活躍している。

公式ホームページ <https://www.tatsuyashimono.com>



©Tat Keng Tey

バイオリン レイ・チェン



(English)

台湾に生まれ、幼少期をオーストラリアで過ごす。15歳でカーティス音楽院への入学が認められ、アーロン・ロザンドの下で学んだ。

2008年ユーディ・メニューイン国際コンクール、2009年エリザベート王妃国際音楽コンクールでの優勝を機に世界的な注目を浴びる。2017年アメリカの経済雑誌フォーブスの「最も影響力のある30歳未満のアジア人30人」に選ばれたほか、フランスのパリ祭、ストックホルムでのノーベル賞コンサート、BBCプロムスなど、主要イベントにも数多く出演している。

これまでにロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ベルリン放響、ミラノ・スカラ座管、ワシントン・ナショナル響、ロサンジェルス・フィル、ニューヨーク・フィル等の著名なオーケストラ、リッカルド・シャイー、ウラディーミル・ユロフスキ、サカリ・オラモ、マンフレート・ホーネック、ダニエレ・ガッティ、キリル・ペトレンコ等の指揮者と共演している。

2011年にソニー・クラシカルから発売されたデビューアルバム「ヴィルトゥオーゾ」はドイツ・エコー・クラシック・アワードを受賞。2017年にデッカ・クラシックスと契約し、翌年、ロンドン・フィルとの共演によるアルバムをリリースした。

使用楽器は日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1714年製ヴァイオリン「ドルフィン」。



千葉県少年少女オーケストラ 音楽監督 佐治 薫子

公益財団法人千葉県文化振興財団 特別参与

1935年木更津市生まれ。1956年千葉大学教育学部音楽科卒業、同年君津市立松丘中学校勤務。リード合奏の指導に情熱を傾け、バッハの音楽を中心に演奏活動をし、「山の中のバッハ」のタイトルで全国放送される。

1966年から船橋市立前原小学校へ転任。リード合奏からオーケストラ音楽への指導に専念。1976年に習志野市立谷津小学校へ転任し、1984年から市川市立鬼高小学校へ転任した。最後の4年間は再び谷津小学校で過ごし、1996年退職。教職40年間にわたる音楽教育に情熱を傾け、その間40数回も子ども達を全国優勝に導いている。

在職中テレビ・ラジオ出演も多数。また、サントリーホールやNHKホール、東京文化会館大ホール、中新田バッハホール、カザルスホール等での招待演奏、さらにニュージーランド演奏旅行等も経験している。

退職後1996年4月1日からは、千葉県少年少女オーケストラ音楽監督に就任した。2006年4月放映のNHK「にげんドキュメント ～がんこ先生とぼくらのハーモニー～」では、音楽に情熱を傾ける姿が反響を呼び、2009年10月に再放映された。2007年2月には千葉テレビ「佐藤しのぶ出逢いのハーモニー」に単独出演（2010年3月1日に再放映）、また2009年9月には、NHK-BS2の「どれみふぁワンダーランド」の「匠の技」コーナーにおいてその指導法が紹介されるなど、テレビ・ラジオにも出演している。

<主な受賞>

「サントリー地域文化賞」「千葉県教育功労賞」「市川市民栄誉賞」「国際ソロプチミスト賞」

「習志野市教育文化功労表彰」「国際ソロプチミスト社会貢献賞【全国表彰】」「習志野市市政功労賞」

「キワニスクラブ教育文化奨励賞」「千葉県文化功労賞」「NHK 関東甲信越地域放送文化賞」

「音楽教育功労賞【全国表彰】」 地域文化功労者表彰【全国表彰】(2016) 等

<出版されている本>

森 玲子 著「バッハ先生と1000人の子どもたち」CD付き(D.ブレイン)

森 玲子 著「ひろがればくらのハーモニー」(講談社) 他

公益財団法人日本音楽財団



(English)

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。

保有する世界最高クラスの弦楽器21挺（ストラディヴァリウス・ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ガールネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン2挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。 www.nmf.or.jp



ストラディヴァリウス 1714年製ヴァイオリン「ドルフィン」



(English)

1860年代後半にこの楽器を所有していたジョージ・ハートは、光沢の美しい裏板のニスと華麗な見栄えが、優美なイルカが光り輝いている様を思わせることから「ドルフィン」という名前を付けた。音色並びに楽器の保存状態が優れており、1715年製「アラード」、1716年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの三大名器の1つとされている。また、巨匠ヤッシャ・ハイフェッツ（1901～1987）が愛用していたことでも知られている。

ニコライ／歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲

ドイツのオットー・ニコライ（1810～49）は、オペラの作曲家として知られているが、指揮者としても活躍した。1841年ウィーン宮廷歌劇場の指揮者に就任し、現在のウィーン・フィルの初代指揮者として楽団の基礎を築いた。

1849年にベルリン王立歌劇場で初演された歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」は、シェイクスピアの同名の戯曲にもとづく（後年のヴェルディの歌劇「ファルスタッフ」と同じ題材である）。15世紀のイングランド・ウィンザーを舞台に、大酒飲みだがウィットに富んだ老騎士ファルスタッフが女性たちにやり込められてしまう喜劇である。全3幕のオペラの幕開けに演奏される序曲は、これから始まる痛快な物語への期待を高める明るく楽しい音楽。ゆるやかな序奏（アンダンティーノ・モデラート、ヘ長調、4/4拍子）は、低音弦楽器のたっぷりとした旋律で始まる。主部（アレグロ・ヴィヴァーチェ、2/4拍子）は、弾むような軽快な音楽で、ハ長調に転じて優美な主題が提示されたのち、再びヘ長調に戻り、この主題を中心に新しい楽想をはさみながら華やかに盛り上がる。

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64, MWV O 14

19世紀ドイツ・ロマン派の作曲家フェリックス・メンデルスゾーン（1809～1847）の作品のなかで最も有名なヴァイオリン協奏曲は、ロマンティックな情熱と古典的な均整、輝かしい演奏技巧と堅固な構築性が見事なバランスで保たれた名曲である。

1844年夏、メンデルスゾーンは、フランクフルト近郊の保養地ゾーデンに滞在した。その地で、友人でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスターのフェルディナント・ダーヴィト（1810～1876）のために、長年の懸案だったヴァイオリン協奏曲に着手する。9月に書き上げ、楽譜はすぐにダーヴィトのもとに届けられた。メンデルスゾーンはいつも、書き終えたところで完成とはみなさず、納得のいくまで改訂、徹底した推敲を重ねた。今回もダーヴィトの助言を受けて、様々な加筆修正を行った。例えば、第1楽章のカデンツァは、当初は13小節だったが、37小節に拡張された。「書き換えて長くなったカデンツァは、これで良いだろうか？僕はずっと良くなったと思うが、演奏に合った正しい書き方になっているだろうか」（1844年12月17日、ダーヴィト宛の手紙）。2人の間でこうしたやりとりを繰り返しながら、完成稿を仕上げた。初演は、1845年3月13日にライプツィヒのゲヴァント・ハウスでの演奏会で行われた。メンデルスゾーンは、体調不良で立ち会えなかったが、ダーヴィトの独奏、友人のニルス・ゲーゼの指揮で行われた。

楽曲は、伝統的な3楽章構成で書かれているが、メンデルスゾーンはここでいくつもの新機軸を打ち出している。まずは、楽章間は切れ目なく演奏され、第1楽章のカデンツァは、従来の楽章終結ではなく、展開部の最後に配置された。曲の始まりも革新的で、オーケストラによる提示を置かず、短い導入に続いて独奏ヴァイオリンが美しい旋律を歌い出す。自然な流れのため違和感はないが、当時の協奏曲の開始としては大胆な試みであった。また、カデンツァは、奏者に任せるのではなく作曲者がすべて書き起こした。さらに主題の動機の活用や木管楽器を巧みに組み合わせたオーケストレーションなど、作曲家のアイディアと個性が存分に発揮されている。

第1楽章（アレグロ・モルト・アパッショナート、ホ短調、2/2拍子）

弦楽器の揺れ動く分散和音の反復にのせて、独奏ヴァイオリンの哀愁を帯びた旋律が現れ、ト長調の穏やかな第2主題は木管楽器で示される。展開部は、第1主題を中心に展開される。華麗な技巧が力強く披露されるカデンツァを経て、再現部となる。最後にファゴットの口音が残り、それを橋渡しに次の楽章に入る。

第2楽章（アンダンテ、ハ長調、6/8拍子）

抒情的な旋律が静かに広がる緩徐楽章。独奏ヴァイオリンがシンプルで優美な旋律を歌い上げる。中間部（イ短調）は荘重な主題が示され、独奏ヴァイオリンが重音奏法や細かな装飾を伴いながら拡大させる。再び優美

な主題が戻り、最後は静かなまま終楽章へ。

第3楽章（アレグレット・ノン・トロツポ、ホ短調、4/4拍子～アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ、ホ長調）

移行的な序奏に続き、快活な主部は、管楽器の堂々とした和音に続いて、独奏ヴァイオリンの弾むような軽やかな第1主題が現れる。堂々としたホ長調の第2主題、さらに新しい主題をはさみ、華やかな技巧とともに展開し、情熱的に高まる。

ベートーヴェン／交響曲第3番 変ホ長調 Op.55「英雄」

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）は、1802年5月から半年間、ウィーン郊外のハイリゲンシュタットに滞在し、遺書をしたためた。いわゆる「ハイリゲンシュタットの遺書」として知られるものだが、そこには身体的、精神的苦悩も書かれていたものの、それは死へと向かう言葉ではなく、苦難を克服した者の力強い決意であった。

ウィーンに戻ってきたベートーヴェンは、書き溜めたスケッチをもとに創作に没頭する。ピアノ協奏曲第3番、ヴァイオリン・ソナタ第9番「クロイツェル」、ピアノ・ソナタ「ヴァルトシュタイン」など、のちに「傑作の森」と言われる創作中期の充実した作品が次々と生み出された。交響曲第3番は、1803年に本格的に作曲が開始され、1804年はじめにほぼ書き上げられた。

交響曲第3番は、全体の構成も音楽的な発想も従来の交響曲にはない革新的な内容をもっている。作品全体の長さは、その後のブルックナーやマーラーの交響曲を知っている私たちにとっては、それほど長く感じないかもしれないけれども、それまでの交響曲とは比べものにならないほど長大になった。また、長調の交響曲としては異例の短調の緩徐楽章を置き、終楽章は自由な変奏曲としたのも新しい。この斬新な交響曲を、フランス革命の精神でもある共和主義を信奉していたベートーヴェンは、1歳年長のナポレオンを人間の自由と解放の象徴とみなし、彼に捧げようと考えていた。だが、ナポレオンが皇帝に即位したことを聞くと激怒し、表紙を破って楽譜を叩きつけた。その後、「英雄交響曲」と題名が改められ、「ある偉大な人物の思い出を記念して作曲された」と書き添えられた。初演は、1805年4月7日にアン・デア・ウィーン劇場において、作曲者自身の指揮により行われた。

第1楽章（アレグロ・コン・ブリオ、変ホ長調、3/4拍子）

主和音が2回、力強く連打され、チェロから朗々とした第1主題が歌われる。穏やかな第2主題が示され、充実した展開部に入る。第1主題を中心に展開され、再現部に入るが、その後に長大な終結部（第2展開部の性格ももつ）が続くのも特徴的である。

第2楽章「葬送行進曲」（アダージョ・アッサイ、ハ短調、2/4拍子）

弦楽器が厳かに歩みを進める。葬送主題が示され、中間部（ハ長調）はオーボエののびやかな旋律で始まる。再び葬送主題による主部が拡大されて戻り、やがて小フーガとなる。トランペットのファンファーレが「最後の審判」を告げ、最後に第1ヴァイオリンが葬送主題を切れ切れに回想するが、その思いも断ち切られる。

第3楽章「スケルツォ」（アレグロ・ヴィヴァーチェ、変ホ長調、3/4拍子）

軽やかに弾む主部は明るくのびのびとしている。中間部のホルンの合奏は、この交響曲のききどころのひとつ。やがて主部が再現され、ティンパニのロール打ちも加わってクライマックスを作り上げ、短い終結部で結ばれる。

第4楽章「フィナーレ」（アレグロ・モルト、変ホ長調、2/4拍子）

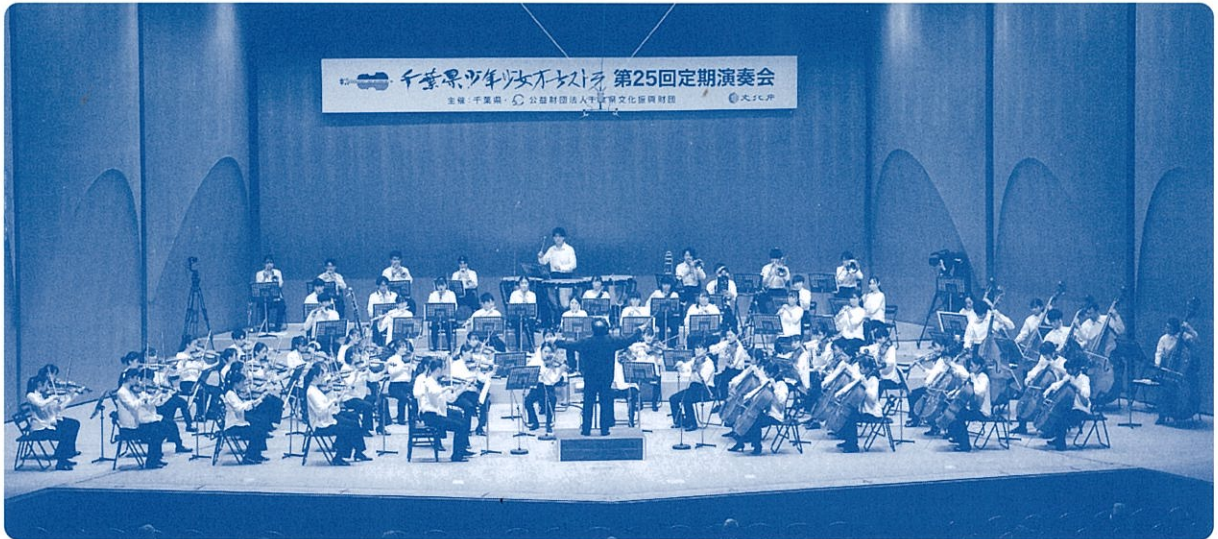
主題と変奏にフーガが挿入された、きわめて独創的な楽章である。オーケストラのための《12のコントルダンス》、バレエ音楽《プロメテウスの創造物》（ともに1801）、ピアノのための《自作主題による15の変奏曲とフーガ（エロイカ変奏曲）》（1802）で用いられたお気に入りの主題にもとづく。主題が少しずつ変奏され、フルートの軽やかなパッセージ、ゆっくりとしたテンポ（ポーコ・アンダンテ）の木管楽器による抒情的な変奏もききどころである。終結部（プレスト）は、再び活気を取り戻して輝かしく結ばれる。

〈解説：柴辻純子（音楽評論家）〉

千葉県少年少女オーケストラ



(English)



1996年に佐治薫子氏を音楽監督に迎え、都道府県レベルでは全国初の少年少女によるオーケストラとして結成され、29年目を迎えた。団員は10歳から20歳までの160名で「よい音で、よい演奏を」をモットーに、土曜・日曜を利用して、県内各地から千葉県文化会館に集まり練習に励んでいる。現在は千葉県文化会館が大規模改修工事に伴う休館のため、青葉の森公園芸術文化ホールほか、県内各所の練習会場をお借りして活動を続けている。

演奏活動は定期演奏会、地域演奏会や招待演奏など、県内外で数多く行っているほか、海外での公演も多く、これまでに米国、韓国、ドイツ、ブルガリアで演奏会を行い、好評を博した。また、「にんげんドキュメント」や「どれみふぁワンダーランド」、「題名のない音楽会」などテレビ番組にも多数出演。

2009年、これまでの活動が評価され、団体としては初めて「文化の日千葉県功労者表彰の文化功労」を受賞。

2017年の第21回定期演奏会で、ベートーベンの交響曲第4番を演奏、この4番をもってベートーベンの交響曲全9曲の演奏を果たした。2018年の第22回定期演奏会では下野竜也氏の指揮でブルックナーの交響曲第4番「ロマンティック」を演奏、8月にはドイツのトーンハレ・デュッセルドルフ・ユースオーケストラと交流演奏会を行った。2019年3月には1週間に3公演というスケジュールで、東京公演、題名のない音楽会の公開録画、第23回定期演奏会を井上道義氏の指揮、小曾根真氏のピアノで行った。特に、東京公演では、秋篠宮眞子内親王殿下並びに佳子内親王殿下のご臨席を賜り、サントリーホールにおいて初めての単独公演を行った。2021年3月には下野竜也氏の指揮、清水和音氏のピアノで第25回定期演奏会を、2023年3月には指揮に辻博之氏、ソリストに神尾真由子氏を迎えて第27回定期演奏会を、そして2024年末で指揮者としての活動を引退した井上道義氏との最後の共演である第28回定期演奏会を東京芸術劇場において開催するなど、益々充実した活動を続けている。

千葉県少年少女オーケストラ今後の予定

千葉県少年少女オーケストラ結成30周年記念 大谷康子 合奏クリニック

日 時：令和7年8月15日（金） 開演 13：00

会 場：千葉県文化会館 大ホール

出 演：大谷 康子（バイオリン）

千葉県少年少女オーケストラ結成30周年記念 第30回定期演奏会

日 時：令和8年3月29日（日） 開演 14：00

会 場：千葉県文化会館 大ホール

指 揮：下野 竜也

合 唱：新国立劇場合唱団

曲 目：交響曲第9番 二短調 Op.125「合唱付き」 ほか



©Shin Yamagishi

演奏会の模様は、下記の日程で放送の予定です。放送日時は変更になる場合があります。

■「第29回定期演奏会」

◎テレビ放映 チバテレ

本放送 令和7年4月13日（日） 19：00～19：55

再放送 令和7年4月19日（土） 18：05～19：00

■「レイ・チェン×千葉県少年少女オーケストラ 東京公演」

◎ラジオ放送 NHK-FM（千葉県域）

千葉80.7MHz 白浜82.9MHz 勝浦83.7MHz 館山79.0MHz 銚子83.9MHz

放送日時は決まり次第、NHK千葉放送局のホームページでお知らせします



NHK千葉放送局
ホームページ



千葉県少年少女オーケストラシンボルマーク
（平成12年度作成）

公益財団法人

千葉県文化振興財団 千葉県少年少女オーケストラ事務局

〒260-8661 千葉市中央区青葉町977番地1

青葉の森公園芸術文化ホール内

電話 043-222-2292 FAX 043-266-1660

<https://www.cbs.or.jp/cpyo/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



GREEN PRINTING JPP
P-010029
この印刷製品は、環境に配慮した
素材と工場で製造されています。